

Q3-2. 熊本地震により、大規模な土砂崩壊が多数発生していますが、洪水調節容量は確保できるのでしょうか。

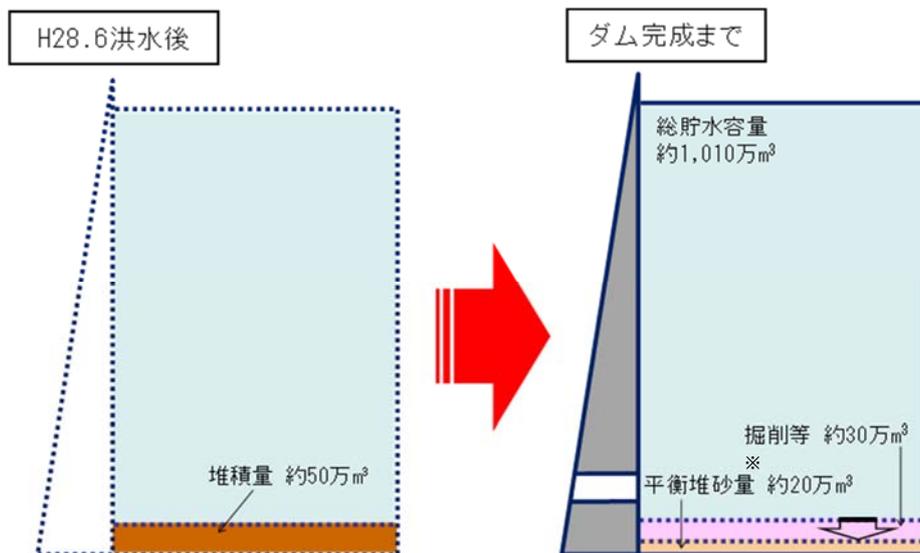
○立野ダムの湛水予定地内には、熊本地震後の平成 28 年 6 月洪水後時点では約 50 万 m^3 の土砂が一時的に堆積していましたが、その後の中小出水等を経て、最新の測量結果（平成 29 年 7 月実施）では、約 20 万 m^3 の土砂が堆積している状況です。

○この約 20 万 m^3 という値は、立野ダムの計画で想定している平衡堆砂量^{※1}と等しい値であり、堆砂量がこれ以下であれば、洪水調節容量は確保されている状況です。（図－1～2）

※1：流入土砂量と流出土砂量が等しくなった時の安定した堆砂量

○引き続き、立野ダム湛水予定地内の土砂の堆積状況を継続的に調査し、必要に応じて土砂の撤去を行うなど適宜対策を実施します。

○なお、関係各分野の第一人者からなる「立野ダム建設に係る技術委員会」において、ダム完成までに洪水調節容量を確保するための約 20 万 m^3 を超える体積土砂については、掘削を行うなどの対策を実施することにより、「洪水調節のための必要な容量を確保することは十分可能と考えられる」との評価を得ています。



※平衡堆砂量とは、流入土砂量と流出土砂量が等しくなった時の安定した堆砂量

図-1 容量確保のイメージ

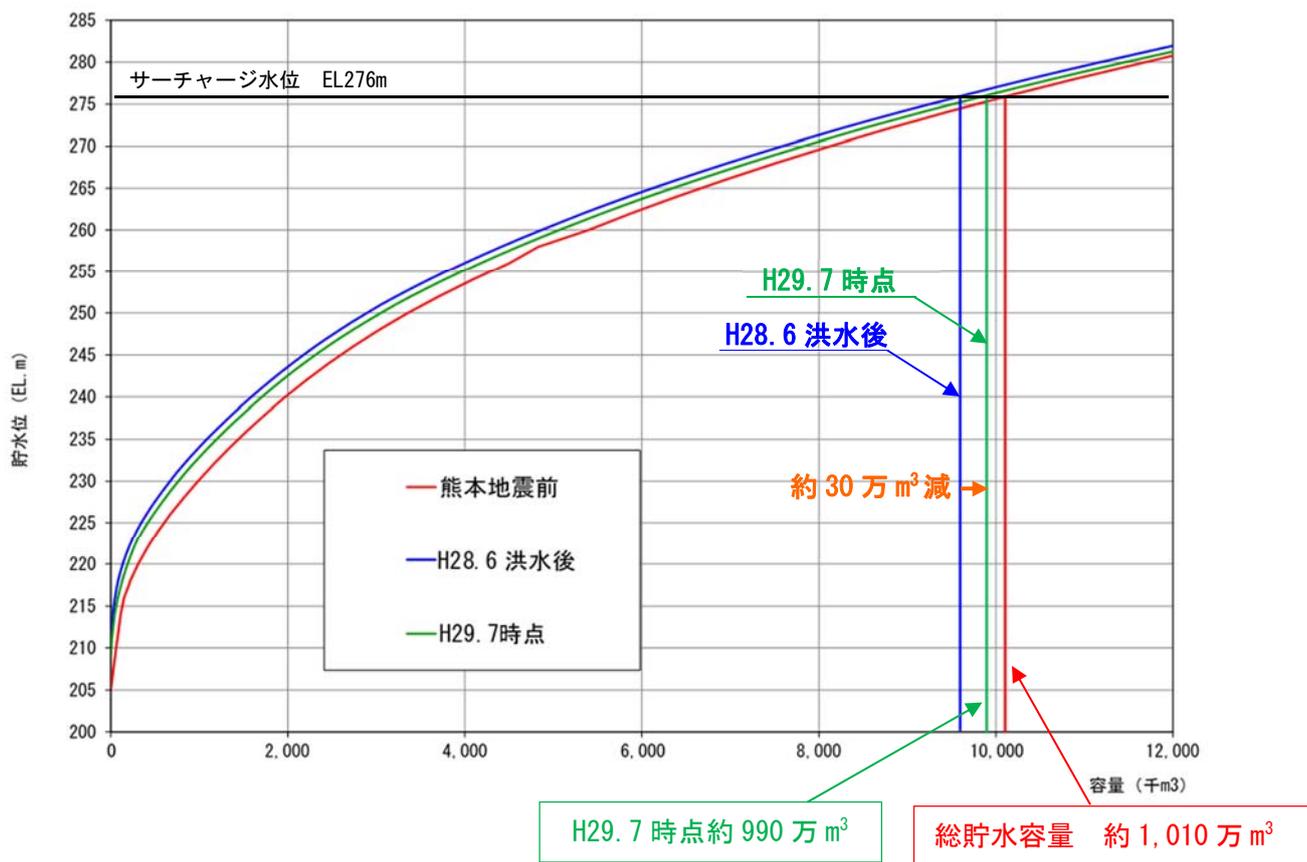


図-2 立野ダム H(標高) - V(容量) 関係図